

統一課題全体計画

課題					超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用		開発期間	令和7年度～令和11年度 (令和12年度)			
開発箇所	計13箇所	面積・ プロット 数	胆振東部森林管理署 7.15ha、3プロット 網走西部森林管理署西紋別支署 14.57ha、3プロット 山形森林管理署最上支署 2.00ha、12プロット 秋田森林管理署 5.86ha、12プロット 棚倉森林管理署 2.26ha、6プロット 静岡森林管理署 2.39ha、8プロット 飛騨森林管理署 3.18ha、9プロット 飛騨森林管理署 4.54ha、9プロット 和歌山森林管理署 1.29ha、9プロット 香川森林管理事務所 5.13ha、3プロット 四万十森林管理署 4.86ha、3プロット 宮崎森林管理署都城支署 1.80ha、9プロット 熊本森林管理署 2.74ha、9プロット 計 13箇所、57.77ha、95プロット ※茨城森林管理署、岡山森林管理署において試験地設定調整中		担当部署	林野庁 国有林野部 業務課	共同研 究機関	北海道森林管理局 なし 東北森林管理局 なし 関東森林管理局 (森林総合研究所) 中部森林管理局 岐阜県森林研究所 近畿中国森林管理局 なし 四国森林管理局 (森林総合研究所四国支所) 九州森林管理局 なし			
課題の分類		統一課題	技術開発 基本目標	1	その他 関係施策等	森林・林業基本計画、国有林野の管理経営に関する基本計画					
現状と 問題点		エリートツリー等コンテナ苗(特定苗木を含む)については、下刈り回数の縮減による造林の省力化・低コスト化等が期待され、今後、供給体制が整備されてくるものと考えられる。一方で、その能力を十分に発揮するためには土壌や微地形等が影響するとの調査結果もあり、特にエリートツリー等が良好に成長するには、成長初期に十分な養分が必要と想定される。									
開発目標 (数値目標)		植栽後も効果を発揮する超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の成長促進効果、植栽適地等の検証を行うとともに、5年後の実用化を念頭に再造林の低コスト化の可能性について検証する。									
開発方法		○苗木の樹種はスギ、ヒノキ、トマツのいずれかで、①エリートツリー等苗木(超緩効性肥料あり)、②エリートツリー等苗木(超緩効性肥料なし)、③普通苗木の3種類を準備(全てコンテナ苗) ○苗木は、地域で流通している苗木の中で可能な限り優良な形状比(徒長苗を避ける)、根元径(細いものを避ける)とし、苗木出荷時のサイズは地域で流通し、通常の造林事業で使用されているものと同等のもの ○超緩効性肥料(700日タイプ)を使用し、コンテナへの移植時に行うことを基本とする ○調査プロットは斜面の上・中・下に設定(※斜面の状況により調整することもある)									
年度別 計 画	令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和11年度		(令和12年度)
	・試験地の設定(基礎データ調査)										
	・植栽(初期調査)—————▶										
	・雑草木調査(C区分判定)—————▶										
	・生育状況調査—————▶										
※各局の詳細は各局シートに記載											
中間報告				○							
技術開発委員会における意見											
その他											